

総評 福岡県公立高校入試問題(2025年3月5日実施)

昨年(2024)と比べると国語は解きやすくなったが、その他の教科は同程度もしくは難化傾向。新傾向の出題も見られ、特に今年は理科と英語の難易度が上がったことから、5科トータルの全体平均点は昨年より下がる見込み。ここ数年、数学と英語が難しく、点数差の開く教科になっているため、特に学区上位校を狙う場合、早い段階から数学の実力アップと英検準二級レベルを視野に取り組んでおきたい。教科書をベースとして隅々まで理解し、難易度の高い入試問題にもチャレンジしていく主体的なスタンスが求められる。なお、県教委による5科全体の予想平均点は173.8点、教科別では国語 36.1点、数学 33.7点、社会 36.2点、理科 33.8点、英語 34.0点となっている。

各教科分析と次年度以降のアドバイス

	2025年3月 福岡県公立入試問題分析	次年度以降の対策
国語	<p>大問1:論説文</p> <p>今年の論説文は、直観と知覚を比較しながら、物事を理解するうえでの直観の重要性を伝える内容でした。記述式の問題が3問出題され、1問は本文からの抜き出し、2問は抜き出しではなく、自分で考えて書く形式でした。これは受験生にとって負担が大きい部分です。</p> <p>また、漢字や文法の知識を問う問題は、例年大問1に含まれていましたが、今年は大問2へ移動しました。</p> <p>大問2:小説</p> <p>(1)の小説は社会人野球を題材にした作品からの出題でした。一般的に馴染みが薄いテーマかもしれませんが、十分に想像できる範囲の内容でした。記述式の問題は、ほとんどが本文からの抜き出しで、考えて書く問題は1問のみ。ただし、「五字以上十字以内」という条件があるため、比較的書きやすいものでした。また、問1が敬語表現を問う問題だったため、実質的に文章読解の問題数が1問減っています。</p> <p>(2)の漢字・文法の知識を問う問題は大問1から移動しましたが、形式に大きな変化はありません。(1)の本文から抜き出す形式の問題が初めて出題されましたが、難易度はそれほど高くありませんでした。</p>	<p>大問1(論説文)</p> <p>キーワードをつかむ:本文中で何度も出てくる言葉を探し、それが筆者の主張とどう関係しているかを考える。</p> <p>論の展開を理解する:比較を軸に議論が展開されることが多いため、共通点や相違点を整理しながら読む。</p> <p>具体例の役割を意識する:具体例の前後には筆者の主張が書かれていることが多いので、そこを押さえる。</p> <p>大問2(小説)</p> <p>登場人物の心情変化に注目:特に「マイナスからプラスへ変化する場面」が頻出。今回も、社会人野球チームへの入団を決意する場面が中心だった。</p> <p>心情の根拠を探す:登場人物がなぜそう思ったのか、行動やセリフから読み取る。</p> <p>大問3(古文・漢文)</p> <p>基本的な知識を押さえる:現代仮名遣いや返り点のルールを正しく覚える。</p> <p>主語を意識して読む:古文では主語が省略されることが多いため、誰の話なのかを常に考える。</p> <p>大問4(作文)</p> <p>とにかく書いてみる:作文は実際に書くことで上達する。一文を短くし、文のねじれがないか注意する。</p>

大問 3:古典

去年と同じく、漢文の書き下し文とその現代語訳からの出題でした。現代仮名遣いの問題も特に難しくありませんでした。今年は、過去2年間出題されていた「会話文にかぎ括弧をつける問題」がなくなりました。また、返り点の問題は、ここ二年はレ点と一二点の両方を書く必要がありましたが、今年は一二点のみとなり、難易度が下がりました。

また、問1から問4の中で、登場人物の考えや言動の根拠を問う問題がなくなったため、読解の負担は軽減されたと言えます。問5の「漢文の書き下し文と現代語訳を読んだ生徒と先生の会話の空欄を補充する問題」は、昨年と形式が同じでした。また、本文からの抜き出し問題が、これまで記号選択や漢字二字の解答形式だったものが、今年は七字で抜き出す形式になり、答えを見つけやすくなっていました。さらに記述問題(十字以上十五字以内)には指定語句があり、書きやすくなっていました。総じて、昨年よりも易化した印象です。

大問 4:作文

第一段落のグラフを読み取る形式は、ここ2年と変わりませんでした。ただし、過去2年は2つの項目に触れる必要がありましたが、今年1つの項目について書けばよくなり、難易度が下がりました。

第二段落では、第一段落の内容を踏まえ、自分の考えを自分の経験と結びつけて書くという、例年通りの形式でした。マイナーチェンジはあったものの、大きな変更はなく、書きやすくなっていました。

【まとめ】

大問1の記述問題と大問3の古典が、得点差のつくポイントになりそうです。特に記述問題は、本文中で答えの軸となる部分を見つけられたかが重要で、部分点の有無で差がつくと考えられます。全体的に解きやすくなっており、ミスが減らし、記述問題の精度を上げ

添削を受ける:学校の先生や大人に見てもらい、フィードバックをもらう。

模範解答を分析する:どのような構成になっているかを研究し、自分の文章に活かす。

【アドバイス】

全体的に難易度は同程度かやや下がった印象の今年の国語の入試。来年の受験生は、注意深く読み、書く際のミスを減らし、記述問題の精度を高めることが合格への近道となります。国語は勉強すれば伸びる教科です。

	<p>ることが高得点への鍵となります。</p>	
<p>数学</p>	<p>大問数は6題で構成も例年通り。大問2は確率からデータの活用(箱ひげ図)に、大問3は文字を使った説明から複数単元の融合問題になった。</p> <p>大問1 計算・小問集合 計算から方程式、標本調査、関数の変域など9問。関数のグラフをかく問題は毎年(今年は反比例)出題されている。標本調査の問題では、何を求めるのかをきちんと確認して計算していかないと間違ってしまうので注意が必要。大問1は確実に全問正解したいところだ。</p> <p>大問2 データの活用 (1)は最頻値を求める問題。度数分布表をもとに度数が最も大きいところの階級値を答える。(2)は度数分布表と箱ひげ図を正確に読み取り、正しいことを述べているものを記号で選択する。(3)は累積相対度数の問題。計算力が求められる。</p> <p>大問3 融合問題 (1)は場合の数。順番に取り出すところに注意。(2)は条件を正確に読み取り、手順通りに計算する。はじめの数については、1次方程式をつくり求めていくとよい。(3)は、はじめの数をaとしてDの操作でそのaが消去されるにはどうすればよいかという視点で考えていく。</p>	<p>◆まずは大問1の計算・小問題を確実に 大問1は小問題が9問、中1から中3のあらゆる単元から出題されます。正確な計算力と幅広い基礎力が試される問題ばかりですので、ここは確実に得点源にしたいところです。また、グラフを書く問題が6年連続で出題されていますが、勘違いで取りこぼしてしまう人も意外と多いようです。その関数がどんな形なのか、どの点を通ればいいのかをきちんと確認してグラフを書くようにしましょう。日頃から計算ミスが多いと感じている人は、まずはそのクセを早めに直していくところから。間違いをそのままにせず、なぜ間違ったかをきちんと追求していきましょう。そして同じ失敗を繰り返さないように、普段から意識を持って取り組んでいくことが大切です。問題を解き終わったら、毎回「見直し」をすることも心掛けてください。</p> <p>◆データの活用に関する問題について ここ数年は、確率統計や資料データを扱った問題が増えてきており、他県の入試でもよく出題されている分野です。福岡県の入試では大問まるごと出題される傾向にあります。まずは用語の理解と資料や図の正確な読み取りが重要。さらに記述形式で説明する問題も出題されていますので、過去問などを使って出題傾向をつかみ、解答法を練習していくことがポイントです。</p> <p>◆関数の利用を早めに練習していこう 数学が得意な人や基礎が確実に定着してきたら、毎年大</p>

(4)は2次方程式をつくって解いていく。場合の数、方程式(1次2次)、文字式の活用など複数単元が組み込まれた良問であり難問。ここで考えすぎると時間が足りなくなってしまう。

大問4 関数の利用(速さ)

毎年出題される関数の利用の出題。今年も1次関数のみ。(1)は速さと時間の問題。7.5分→7分30秒という変換はスムーズにできるようになっておきたい。(2)は速さを求めて正しい時間と道のりの関係を選択。(3)は電車Qのグラフの傾きが最も大きいときと小さいときを読みとり、求めていく必要がある。

(4)は電車Rのグラフを書き足すことでイメージしやすい。2直線のグラフの式を求め、交点を求めていく。このパターンで出題されることが多い。

大問5 平面図形

(1)は角度の問題。二等辺三角形に注目すれば解けるはず。(2)の三角形の相似の証明。○と△が等しい→□と△が等しい→だから○と□が等しいといったような、間接的な説明で1組の角が等しいことを述べる必要がある。

(3)円の直径を求める問題。円周角を用いて三角定規を見つけ、そこから平行線と線分の比、三平方の定理、相似を用いることでスムーズに解くことができる。昨年同様、難しい。

大問6 空間図形

(1)は昨年にはなかった展開図。(2)は三角錐の体積を求める問題。三平方の定理を用いて必要な長さを求めていく。三平方をしっかり練習していた受験生にとってはここも正解したいところ。(3)は例年よりも解きやすかった。必要な長さを三平方で求め、そこから面積比を利用して解いていく。

大問別にみると、1、2、4、5は例年通り、3は難化、6は易化。全体的には昨年と同じくらいかやや上がる見込み。記述問題は減ったが、今年はさらに問題量が多かったため、時間が足りなかったと感じた受験生が多数いただろう。

問4に出題されている「関数の利用」に早めに取り掛かっていきましょう。福岡県の問題は情報量も多いので、短時間に正確に読み取る力が必要です。扱われる数値も複雑で、より正確な計算力も求められます。

◆上位校突破は図形問題の攻略がカギ

後半の大問5と大問6の図形問題も難化傾向にあります。図形が得意ではない受験生も多いですが、特に上位校を目指していく場合、図形問題にも力を入れていきたいですね。ただし応用問題といわれる多くは、複数の基礎基本を集めた問題になっていますので、まずはそこを完璧におさえしていくことが前提条件であり、やはり練習量が決め手になっていきます。

【中1中2生へアドバイス】

①まずは何といても計算力です。分数計算や中3で習う根号(ルート)の計算も、素早く正確に解けるようにしていきます。

②用語の意味や公式を正確に覚えていきましょう。ただし、しばらく使わないと忘れてしまいますので、定期的に復習して確認していきましょう。

③設問が複雑な問題も増えてきていますので、数学に限らず、与えられた情報を早く正確に読み取る訓練が必要となります。

④教科書の「活用問題」にもチャレンジしてみてください。特に上位校を目指す生徒にとっては、応用力・思考力強化が必須です。時間をかけてじっくりと考え、深く追求するという学習にぜひ取り組んでみてください。

<p>社会</p>	<p>歴史・地理・公民とバランスよく出題、大問1と2が歴史(20点)、大問3と4が地理(20点)、大問5が公民(14点)、大問6が地理的な内容の資料問題(6点)であった。全体の印象としては、大問構成は従来どおりだが、ややレベルの高い出題や新傾向のパターンが随所に散りばめられ、目新しい出題形式が目についた。また、小問ごとの配点を見ていくと、複数の答えが全て合っていないと正解にならない箇所(全解・両解)が多く、点数を積み上げにくい。記述形式の問題はあいかわらずウェートが高いが、今年度はそこまで難しくなかった。総じて、良問が並び、地理分野の出来が明暗を分けることになりそうだ。昨年がやや易しく平均点が上がったが、例年並みの34点あたりに落ち着くと予想する。</p> <p>過去に出題された問題と同じような問題もあり、県入試の過去問への取り組みが必須であることは間違いないが、ただ、新出内容も各分野に散りばめられているため、それだけでは高得点は厳しい。福岡県入試は問題の質が良いので、まずは基本事項をきちんと理解し暗記したうえで、それらを組み合わせて考える練習をしておきたい。</p> <p>大問1 歴史(古代から近代まで) 時代別の事象をカードにまとめた定番の問題。問1でいきなり近代からの出題、さらには「中江兆民」を選ばせるレベルの高い出題。問4は「銀閣」ではなく、「慈照寺東求堂」と書かれており、知らない受験生も多かったのではないかと。やや難。問5は新傾向の良問。古代律令体制の税制、「調」を木簡から読み取らせる問題。問2の「摂関政治」に関する記述問題は平易。今後、少し踏み込んだ内容やパターンに触れていく必要がある。</p> <p>大問2 歴史(近現代) 大正・昭和(それも戦後のみ)からの出題で、これまで出題の多かった明治期に関する出題がなかった。問1の記述形式は、立憲政友会、原敬の政党内閣についての問題で、やや公民内容と融合した出題。戦後の現代史は出来事</p>	<p>社会科は知識事項の暗記がベースとなりますが、一問一答の丸暗記だけでは入試で高得点は取れません。教科書内容を確実に理解し、定着していればそれで十分なのですが、定期テストと入試とは全く範囲が異なりますから、1問を解くために自分の持っている知識や経験を総動員するぐらいの感覚が必要です。そのためにも復習が欠かせません。知識を忘れずに自分の内にため込んでいくために小テストを上手に活用していきましょう。</p> <p>地理・歴史・公民とバランスよく出題されます。今年は公民がさほど難しくありませんでしたが、例年であれば「公民が難しかった」という受験生の声が多く聞かれます。これには中3の6月頃まで中学校で「歴史」を勉強しており、公民の教科書に入るのが遅くなっているカリキュラム的な要因が挙げられます。中3の夏以降、受験勉強期間と重なってきますので、どうしても公民は勉強量が不足しがち。私たちの生活と直結する内容や時事テーマも多いので、日頃から世の中の動向に興味をもつように心がけましょう。</p> <p>また、授業中の先生の話をよく聞き、その先を想像することも勉強において大切なことです。今年も直前1ヶ月で使った授業プリントや県プレ、記述添削、予想模試、直前チェックの冊子からかなり多く出題されました。分析と研究は私たち塾講師の仕事、受験生のみんなは塾からの課題にきっちり取り組み、わからないところは教科書を調べたり、質問に来たりするなどして、疑問や不安を解決していきましょう。現中2のみんな！次はキミたちの出番です。</p> <p>◆歴史 まずは「人物」と「用語(教科書の太文字)」を正確に理解し、書けるように。次に、年代もセットにしていくといでしょう。自学ノートを活用して、まとめるのもオススメ。</p> <p>◆地理 資料やグラフに慣れ、分析する目を持つことを心がけましょう。また、教科書だけでなく、テレビやインターネット等の視覚情報も役立ちます。</p> <p>◆公民 世相を反映した出題が増えています。ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分なりの意見を持つことを意識しましょう。大人になる準備として公民の学習はとても大切です。政治や経済は、知れば知るほど面白い世界です。</p>
-----------	---	---

の並び替えや石油危機による高度経済成長のストップなど平易。来年の出題動向に注目。

大問3 世界地理

点数差がつく世界地理。問1は久しぶりに正距方位図法の出題、問2は大陸ごとの気候分布割合でやや難しい。問3は資料から州を判別する難問。アフリカ州は正解できるが、北アメリカ州は難しい。問4のバイオエタノールも難。問5のオーストラリアの貿易の変化に関する記述は平易。

大問4 日本地理

資料が多く、手ごわそうに感じるが、内容としては「やや難」レベル。ただ、塾の授業では全て扱った問題だったので、塾生は解きやすかったはず。問1の札幌の位置を経度・緯度から選ぶ問題。問2は水力発電とダムの利用に関して。問3は人口の問題と昼夜間人口比率。問4(1)は中部地方の工業の特色について、特に自動車関連がさかんで機械工業の割合が高いことを知っていればできる。(2)がやや難しい。内陸にある長野県と海に面している富山県を区別できたかどうか。問5は群馬県のキャベツの生産、高冷地農業に関する記述形式の出題、平易。

大問5 公民

憲法、政治、経済、国際社会とバランスよく出題。全体的にはやや易しめ。問1は三審制。問2は憲法改正の流れに関して、㊦の箇所に「総議員の」3分の2以上という答えを求めるのは少し受験生には酷。「総議員」か「出席議員」かを選ばせる形式にしてもよかったのではないか。問3は衆議院の優越に関する記述でこれは鉄板。問4は過去にも出たことのある国連の安全保障理事会、拒否権に関する問題。問5は直前対策と全く同じ問題、需要と供給のグラフから価格の動向を答える問題。問6(1)は累進課税制度の記述でこれも鉄板。(2)も国債発行残高に関する記述で平易。

大問6 現代の社会問題に関して、資料を読み解いて記述する

日本の農業の人手不足問題がテーマ。ドローンを使って農業を散布するスマート農業につ

	<p>いて、資料をもとに関連付けて記述する。難しいくない。</p>	
理科	<p>生物分野、化学分野、地学分野、物理分野から、それぞれ大問2題ずつの合計8問の構成。例年と変わらず、バランスよく出題。学年でいえば、1年生内容が2題、2年生内容が3題、3年生内容が3題と、こちらも偏りなく出題された。ただ、全体的な問題量に変化はないが、基本的な語句や内容を答える問題が減少し、過去に出題されていないような難易度の高い計算問題や作図の問題も出題された。また、完答問題が多く、3点配点の問題も増加したことから、平均点は大きく下がると思われる。</p> <p>大問1（生物分野）ヒトの消化に関する問題 基本的な内容を問う問題が多いが、問2は適切なものを全て選ぶ形式のため、適切ではない選択肢の内容も吟味して選ぶ必要がある。問4の記述形式は、指定語句ではなく、「ヒトは～できないから。」という形で書く必要があるため、やや難しい。</p> <p>大問2（生物分野）細胞分裂に関する問題 問1の記述はどちらも基本的な内容で易し</p>	<p>☆公立高校入試合格のための理科の勉強法</p> <p>①知識をしっかりと固める。 ほとんどの問題が教科書内容から出題されますが、本年度は二酸化炭素中のマグネシウムの燃焼のモデル式が出題されました。(大問4の問2)これは教科書の探究活動からの出題でした。隅々まで内容を理解しておく必要があります。</p> <p>②読解力+記述力 対話形式の問題や誘導がある問題が多く出題されます。しっかりと問題文を読み、問題の意図を読み取り、正確、かつ簡潔に表現する力が必要となります。福岡県公立入試においては避けては通れません。すぐに身につく力ではありませんので日頃からしっかりとした答案作りを心掛けましょう。</p> <p>③正確な作図力=注意力 グラフをかく問題や作図する問題も出題されます。作図の問題では目盛りが与えられているため、細部まで慎重かつ正確に値を取る必要があります。これも日頃から磨いていきましょう。</p>

い。問3は考察の不十分な部分を書き直す記述問題。細胞分裂によって細胞の数が増えるだけではなく、増えた細胞が大きくなるという内容を追加で書くことが必要。問4は体細胞分裂であることと、オでは核の中の染色体が複製されていることに注意したい。

大問3（化学分野）溶解度に関する問題

問1の質量パーセント濃度を求める計算問題は四捨五入して整数で記入することに注意。問2の(1)の記述は基本的な内容だが、(2)の記述は主語が硝酸カリウムなのできちんと考えて書くことが必要。問3は溶解度曲線を読み取って物質 X がどの物質かを選ぶ問題。グラフは 100g の水に溶ける質量を表したものであるが、物質 X を水に溶かしたようすをまとめた内容が水 20g に対してなので難しい。

大問4（化学分野）金属の燃焼に関する問題

問1の(1)は金属に共通する特徴を選択肢から全て選ぶ問題。4の「磁石につく」という内容を選ばないようにしたい。(2)は化学式で書くことに注意。(3)の記述は易しい。問2は二酸化炭素内でのマグネシウムの燃焼のモデルを書く問題。あらかじめ書いてある部分にも記入する必要がある新形式であった。化学反応式と併せて考え、丁寧に解くことが必要。

大問5（地学分野）天気の変化に関する問題

問1は天気図記号の読み取りで基本的な内容。問2は空気 1m^3 中に含まれる水蒸気量の差を求める問題で小数第2位まで求める必要がある。問3は標準的な問題であるが、気温の変化と風向きの変化について完答しなければならない。問4の記述では春の天気の特徴に加え、翌日の気圧配置について述べる必要があり注意が必要。

大問6（地学分野）天体：太陽の日周運動に関する問題

問1は基本的な内容。問2では印の間隔から日の入りの時刻を求める計算問題。分単位

④計算力

今まで福岡県の公立高校入試では基本的な内容しか出題されてきませんでしたが、本年は三平方を用いて分力の大きさを求める問題(大問8の問2)が出題されました。私立入試では頻出ですが、福岡県公立高校入試では見ることがないものでした。難易度が上がっていて、次年度以降もこの傾向が続くと思われます。しっかりと対策しておくことが大切です。

⑤実験・観察の考察

出題の大部分が実験・観察に関する問題です。内容・目的・器具の名前と使い方、注意点などすべてが出題対象です。実験・観察をまとめたノートを作っておくと便利です。理科では幅広く、深く学ぶことが必要です。日頃から取り組み、力をつけていきましょう。

【中2生へ】

入試まであと1年、今すぐ始めましょう。まずは苦手分野から。上位校では高得点が求められます。苦手分野の克服は絶対条件です。また丁寧さも必須です。雑な答案が一番ダメ。1問1問を丁寧に解いていく姿勢を大切にしましょう。

【中1生へ】

中1・中2内容から半分以上が出題されます。履修中の単元の理解度を深めることが大切です。浅い理解は役に立ちません。教科書をよく読み、わからない箇所は参考書などで調べる姿勢が大切です。

で求める必要がある。問3では秋分の日
のシドニー、北極、赤道上での太陽の動きを全て
答える問題で難易度が高い。南中高度の求
め方の公式を理解していれば答えられる。

**大問7（物理分野）光の進み方に関する問
題**

問1はスクリーン上の像の向きを答える問題
で易しい。問2は光源とレンズとの距離を変
化させたときの像についての出題で頻出。問
3の虚像の作図の問題ではできる像の上端と
下端を記す問題で作図方法についてのしっ
かりとした理解が必要。

大問8（物理分野）仕事に関する問題

問1は仕事を求める計算問題。単位に注意が
必要。問2の作図自体は易しいが、分力の大
きさを求める際、三平方の定理を用いて計算
しなければならず難しい。問4では仕事率が等
しいときの速さの順番を求める問題で、与えら
れた表から適切に必要なデータを読み取る必
要がある。

ここ数年基本的な内容からの出題が多く、大
きな変化がなかった理科だが、一転して難化
傾向に。求められるレベルが上がっていて、短
気集中型の学習では高得点は望めない。基本
内容を冬前に固め、私立入試対策で応用力を
強化しておきたい。

<p>英語</p> <p>問題に使われている語彙のレベルが以前より高めだったことで苦勞した受験生が多かった。また、長文読解に新傾向の問題が出題されたことや、リスニングで例年はイラストのある問題が文だけになったり、形式が以前と同じでも一癖あるものや意地悪なものが多かったりしたことで、全体として難化し、受験生をかなり苦しめた。英語学習では、語彙力と文法力という基礎を固めておくことが重要だと再認識させられた。</p> <p>リスニング</p> <p>問題1・3は例年通りの形式、問題2は、昨年が(1)(2)とも共通の地図に関する設問だったが今年とは別々の図表だった。問題4はこれまでイラストなどのあるものだったが、今年は170語からなるスピーチの音声情報のみで解答するものとなり、途中で内容を見失った受験生も多かったようだ。リスニングは説明の時間や早めに解き終わった後を利用して、設問や選択肢、図表などに先に目を通しておかないと正解するのが難しいので、事前に繰り返し練習しておく必要がある。</p> <p>1(対話文選択)</p> <p>対話文の空所補充問題で形式は例年通り。会話をしている状況や文脈と人物それぞれの立場を正しく把握することがポイントで、選択肢の中には代名詞だけが間違っているものもあり、普段から代名詞が具体的に誰を指しているのか把握しながら英文を読む習慣をつけたい。3は会話も選択肢も量が多く、選択肢の違いも微妙で正答率は下がりそう。この大問は点を取っておきたいところだが、特に3が年々難化している。</p> <p>2(対話文読解)</p> <p>放課後の英語クラブでマレーシアとオンラインでつなぎ、それぞれの祭りについて教え合う会話に関する問題。設問が[会話]→[メール]→[プレゼンのテーマ]と展開していくので、読み取りが甘いと正解を選べない。</p>	<p>①英単語</p> <p>今年の入試問題には、comfortable, environment, improve, statue, several, similar, effective, solve, add, take action, proud, quarter, realizeといった語句が(注)なしで出ていました。新学習指導要領になってからの英語の教科書には、英検準2級程度の英単語や熟語(instead of～「～の代わりに」など複数語のセットで意味を表す表現)が多く含まれていますが、中学生を見ていると、不定詞や比較などの文法はある程度わかっている、そうした英単語や熟語を覚えようという意識が低いと感じます。</p> <p>学校の教科書に出てくる英単語は少なくとも意味がわかるようにしたいものです。教科書で太字になっているものは書けるように、また英文の中で正しく使えるようにしましょう。英単語テストがある時だけ覚えるのでは必要な語彙力を身につけることはできません。知らないものが出てきたら自分で確認する習慣をつけましょう。</p> <p>まずは何となく意味のわかる英単語の量を増やしていくことからです。英文を読んでいく時には、全ての英単語の意味がわからなくても、大きな流れを捉えていくことを優先することも大切です。しかし、いい加減な覚え方ばかりしてはダメで、新しく出会った英単語は、発音・アクセント、品詞(名詞・動詞・形容詞など)、意味、使い方(実際に英文の中でどう使うか)など、意味以外のこともチェックする習慣をつけましょう。英単語の力は(1)確実に使いこなせるものと(2)何となく意味がわかるものとの成り立っていて、(1)も(2)も両方とも増やしていく努力を続けることです。覚える時も、見る・聞く・声に出す・書く、と五感をフル活用しましょう。また前置詞(in, for など)や接続詞(if, because など)も重要です。今年は接続詞 though(ゾウ:～だけれども)が出ていました。</p> <p>②英文法・英作文</p> <p>英会話は瞬間のやり取りだから、感覚的なもので文法など意識している暇がないと言う人がいますが、中学の英文法は基礎の基礎です。「何となく」をできるだけ減らし、立ち止まって正しく理解し、ルールに基づいて英文を読んだり書いたりする姿勢を持つことで、テストの時や実際に英語で話す時にも瞬間的に正しい文が作れるようになります。</p> <p>最近の傾向としては、英文の流れに沿った英文を考えて書く問題が増えているので、自分の表現の引き出しを増</p>
--	---

問1は空所補充問題。文脈と選択肢の内容を正しくつかむ必要があるが、選択肢の違いが微妙で迷う。選択肢の英単語 similar(同じような)は覚えておきたい。

問2の語句整序問題の形式は数十年同じ形式(5語から4語選んで並べ替える。順番を変えることで大文字・小文字を変えることはない。)①は〈 help+人+動詞 〉の表現に間接疑問文が組み合わされた文。②は仮定法だが like you(あなたのように)に続くことで混乱を招く。2問とも単純な文ではないので、英文法があいまいな生徒は間違えてしまう。ただ何となく単語を並べるのではなく、どんな文法を用いるべきか識別してから英文を作りたい。

問3は会話の後に送ったメールに関する問題。メールの文も選択肢も長いので、意外と時間を取られる。(1)はメール中の空欄に入る英文を選ぶ問題。日本の七夕とマレーシアのスカイランタン祭りのそれぞれの特徴を正しくとらえないと紛らわしい選択肢に引っかかる。(2)は会話とメールをふまえて、後日行うプレゼンテーションのテーマを選ぶ問題。

3(エッセイ文読解)

生徒たちが農業イベントのため、おいしいトマトジュースを作るにはどんなトマトを使うのが良いか試行錯誤することを通して、答えを出すために様々な方法を試し続けることの大切さを学ぶ内容。グラフの中から選ぶ形式は新傾向。

問1は Who told the students ~ ? (~について誰が生徒たちに伝えたか)に英語で答える問題。英問英答は毎年出題されているが、主語を尋ねる疑問文の答えは一般的な疑問詞の疑問文と違うため、わからない生徒も多い。(例) Who cooks dinner every day? → My sister does.のように〈主語 + do(does, did, is など)〉の形で答える。答え方が Mr. Sato did.とわかって、主語の Mr. Sato が1語か2語か迷うため、これで3語以上という条件を満たすのか迷ってしまう点も厄介。保険のため語数を増やした答え方に変え

やしていく努力が必要です。いろいろな英文を読んだ時に、自分が使うことも想定して学ぶ姿勢を持ちましょう。

③英文読解

まずは教科書の英文を徹底しましょう。

(1)音読:教科書の英文は QR コードで音声を聞けるので、聞きながら読む。音声に少し遅れて音読する(シャドウイング)。

(2)和訳:英語から日本語に直せるようにする。最初は和訳を書き、誰かに正しいか確認してもらう。その後は英文を読みながら、頭の中で正しく意味を言えるか確認する。

(3)英訳:英文の和訳から逆に英文を書いてみる。間違えた部分やわからなかった部分を復習し、覚えたり理解したりする。全部の文をするのは大変なので、自分のレベルによって調節しましょう。

(4)その後は間をおいて時々(1)~(3)を行い、定着させる。

また、英語の問題集などを使って、初めて見る英文を読んだり問題を解いたりする練習をしていくことにより、さらに読解力を鍛えられます。その場合も1度だけで終わりにせず、答え合わせや和訳の確認をした後で、何度も読み返すようにしましょう。塾のテキストには長文問題にも QR コードが付いているので、長文を読む練習だけでなく、音声も聞いてリスニング練習に活用してください。

④リスニング

リスニングを他の勉強と分けて考えずに、英単語や英文法、そして英文読解の勉強をする時にも、上記のように聞き取りや音読を組み合わせることで英語を聞き取る力もついていきます。入試直前になって慌てても間に合いません。教科書の QR コードやアプリ、動画サイトなどを活用しましょう。洋画や洋楽もいいですが、必ず音声を英文にしたものを見ながら聞かないと効果はありません。音声と実際の英文を照らし合わせて、自分の思っていた音と違う部分を修正し、シャドウイングなどで自分でも発音できるようにしていくことで聞き取る力も向上します。

⑤最後に

現在の教科書では中1の段階で、すでに小学校である程度の英単語と英語表現を習得していることを前提に内容が構成されています。教科書を見て、そうした既習内容に

た受験生も結構いるだろうが、こうした1問ごとの引っかけがじわじわ受験生を苦しめる。問2は the problem の具体的な内容を英文中から探し日本語で答える問題。これはそれほど難しくなく素直に答えたい。

問3が新傾向。本文中で最終的に選んだ2つのトマトをグラフで示された4つから選ぶ問題。最も甘いトマトの方は比較的すんなり選べるが、もう一方が「最も酸っぱいトマトではなく、最も甘いトマトよりも酸っぱいトマト」とわかりづらかった。新傾向というのも相まって正答率は低めだろう。

問4は例年通りの内容一致問題だが、本文中の”three months”を選択肢では”a quarter of the year”(1年の4分の1)と違う表現に言い換えることで間違いを誘っているのはセンター試験や共通テストを思わせる。

問5の英問英答(自由に考えて答える)は When do you feel proud of yourself? (あなたはいつ自分自身に誇りを感じるか)という質問への答えを書くもの。proud を知らず答えられなかった者も多かった。答えは I can clean my room. のように I can ~. などの形で簡単な文を作れば良い。自由英作文は考え過ぎず、自分の書ける易しい文を書くようにするのがコツ。

4(自由英作文)

30語以上の英語で書く自由英作文。「行ったことのない場所には家族と行くか、友達と行くか、または一人で行くか」というものに自分の考えを理由とともに書く問題。これも上記の自由英作文と同様、自分の英語レベルで書ける易しめの英文を心がけよう。

自分が知らないものが出てきた場合は、必ず確認したり覚えたりするように努めましょう。それに加えて中学での新出内容も出てきた時に覚え、繰り返し練習して、いつでも瞬間的に意味がわかったり、言いたいことを英語で表現できたりすることを目指していくことが必要です。語学はスポーツや楽器の習得と同様に、単純な基礎練習の継続(英単語の暗記、基本例文の暗唱、英文の聞き取りの習慣など)が最も重要です。やったりやらなかったりするのでなく、短い時間でも触れる機会をできるだけ増やしましょう。英検に挑戦して総合的な力を磨くのもいいでしょう。また、生きた英語に触れるなら、ちくしんの Revo-English が最適です。読む・書く英語と、話す・聞く英語の相互作用や、ネイティブ相手に実際に使いながら学ぶことで強く印象に残ります。